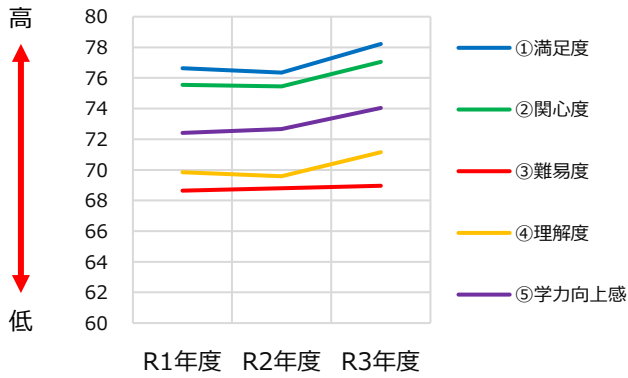


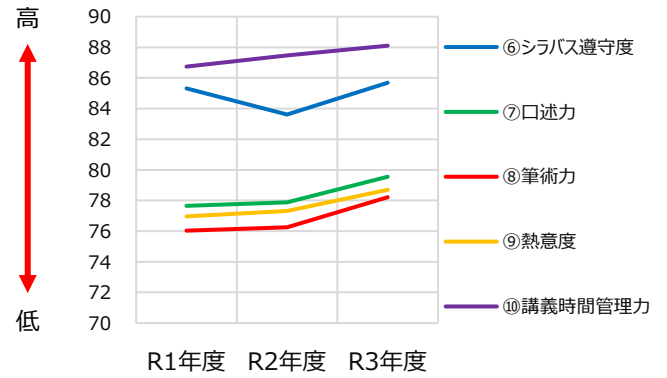
八戸工業大学 授業評価結果全学平均値（経年変化）

授業評価アンケート（設問①～⑤）



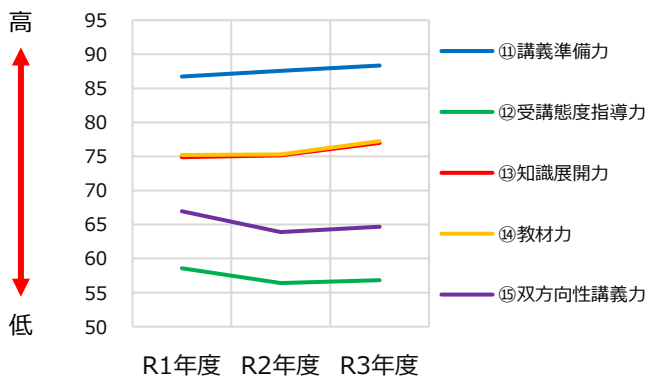
	①	②	③	④	⑤
R1年度	76.6	75.5	68.6	69.8	72.4
R2年度	76.3	75.4	68.8	69.6	72.7
R3年度	78.2	77.0	69.0	71.2	74.0

授業評価アンケート（設問⑥～⑩）



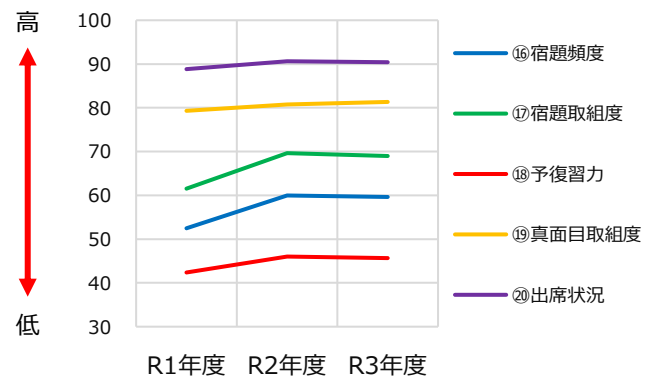
	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
R1年度	85.3	77.7	76.0	77.0	86.7
R2年度	83.6	77.9	76.3	77.3	87.5
R3年度	85.7	79.6	78.2	78.7	88.1

授業評価アンケート（設問⑪～⑮）



	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
R1年度	86.7	58.6	74.9	75.2	67.0
R2年度	87.6	56.4	75.1	75.3	63.9
R3年度	88.4	56.8	77.0	77.3	64.7

授業評価アンケート（設問⑯～⑳）



	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
R1年度	52.5	61.5	42.4	79.3	88.8
R2年度	60.0	69.6	46.0	80.8	90.6
R3年度	59.7	69.0	45.7	81.3	90.4

H24年度より全科目を対象に授業評価アンケートを実施し、これまでアンケートの設問内容・表現の改善、設問数の増加、さらにH25年度に一部のアンケートの設問及び回答の内容の改善を重ね、R3年度も同様のアンケート形式にて授業評価を行った。ここでは、R1～R3年度の各設問の平均値を比較するとともに、R3年度の授業評価についての傾向をまとめる。

まず、グラフから読み取れるようにR1年度の授業評価結果に対し、R2年度を境目にR3年度は上昇している項目と減少している項目が目立つのが特徴的である。この変化の主な要因となっているのは、新型コロナウイルス感染症対策による遠隔授業の導入と考えられる。これまでは対面授業がメインで行われていたが、R2年度は多くの科目の一部授業でリアルタイム型・オンデマンド動画型・課題配布型が取り入れられた。一方、R3年度は再び対面授業が増えている。

R2年度はこの対面授業から遠隔授業への切り替えによって、複数の項目で減少傾向が見られたものの、R3年度では上昇傾向に転じており、20項目中18項目がR1年度の数値より高くなっている。この傾向は各授業担当者が遠隔授業の活用方法を改善し、対面授業と遠隔授業の組み合わせによるハイブリット型授業をうまく実施できたことが要因の1つと考えられる。

しかし、⑫受講態度指導力と⑮双方向性講義力についてはR2年度よりは上昇したものの、R1年度には2～3ポイント足りていない。特に受講生の多い授業では受講態度の指導や双方向性の授業を行う事が必然的に難しくはなるが、改善方法を模索するとともに、設問の一部にある自由記述欄に書かれた授業に対する学生の率直な意見等を含め、毎年実施している授業評価アンケートの結果を今後の授業改善や教育改善につなげていきたい。